

令和  
6  
年度

# いじぎのちり

教師用



愛知教育文化振興会  
三河教育研究会



# 第一学年 「ことばのきまり」と教科書の関連表

「あたらしい こくご」一年 上下 東京書籍（令和六年度版）

	ことばのきまり		教科書	巻	ページ
一	ことばあそび 1	母音の発音	あいうえおの うた	上	18
二	ことばあつめ 1	音節意識	あいうえおの ことばを あつめよう	上	20
三	にぐる おん	濁音・半濁音	ふたと ぶた	上	30
四	ぶんを つくろう	文	ぶんを つくろう	上	36
五	くつつきの 「は・へ・を」	助詞「は・へ・を」	は を つかおう	上	44
六	てんと まる	句読点	を へ を つかおう	上	54
七	つまる おん はねる おん	促音・撥音	ぶんを つくろう	上	36・44
八	ことばあつめ 2	語彙の拡充	ねこと ねっこ	上	58
九	ことばあそび 2	音節意識	ことばあそび	上	60
十	のばして よむ ことば	五十音表	あひるの あくび	上	62
十一	ちいさい「や」「ゆ」「よ」	長音	のばす おん	上	66
十二	音や ようすを あらわす ことば	拗音・拗長音	いしやと いしや	上	76
十三	かん字あつめ	擬声(音)語・擬態語	ことばあそびうたをつくろう	上	96
十四	かたかな	漢数字	かぞえうた	上	114
十五	よう日と 日づけ	象形文字・指事文字	かんじの はなし	上	126
十六	まとめて よぶ ことば	促音・長音・拗音	かたかなを かこう	下	20
十七	かぎ	シとツ・ソとン	かたかなの かたち	下	100
十八	かたちの いて いる かん字	曜日 日付	よう日と 日づけ	下	36
		上位語・下位語	まとめて よぶ ことば	下	56
		字形	おもい出して かこう	下	64
			かたちの いて いる かん字	下	138



「じつばのきまり」学年別指導内容一覧表

第一学年		第二学年		第三学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	ことばあそび 1	一	かん字の書き方	一	国語じてんの使い方
二	ことばあつめ 1	二	かたかなで書くことば	二	漢字の表す意味
三	にごる おん	三	かたかな表記の言葉	三	漢字の多義性
四	ぶんをつくろう	四	擬音語・外国語	四	慣用句
五	くつつきの「は・へ・を」	五	外国人名・地名	五	慣用句
六	てんと まる	六	形容詞等	六	こそあと言葉
七	つまる おん はねる おん	七	句読点	七	漢字の読み方
八	ことばあつめ 2	八	かぎ( )、点( )、かぎ( )	八	俳句に親しもう
九	ことばあそび 2	九	名詞 動詞	九	くわしく表す言葉
十	のばして よむ ことば	十	主語・述語	十	漢字の組み立てと意味
十一	ちいさい「や」「ゆ」「よ」	十一	上位語・下位語	十一	漢字の構成
十二	音やようすをあらわすことば	十二	数詞	十二	大文字・小文字
十三	かん字あつめ	十三	送りがな	十三	長音・拗音・
十四	かたかな	十四	対義語	十四	拗長音・促音等
十五	よう日と 日づけ	十五	音節・同音異義語	十五	
十六	まとめて よぶ ことば	十六	声に出して みよう	十六	
十七	かぎ	十七	同じところのある	十七	
十八	かたちのにている かん字	十八	かん字、かたちのにている	十八	
指導内容	母音の発音 音節意識 濁音・半濁音 文 助詞「は・へ・を」 句読点 促音・撥音 語彙の拡充 音節意識 五十音表 長音 拗音・拗長音 擬声(音)語 擬態語 漢数字 象形文字・指事文字 促音・長音・拗音 シとツ・ソとン 曜日 日付 上位語・下位語 曜日 かぎ( )	指導内容	画・画数・筆順 かたかな表記の言葉 擬音語・外国語 外国人名・地名 形容詞等 句読点 かぎ( ) 名詞 動詞 主語・述語 上位語・下位語 数詞 送りがな 対義語 音節・同音異義語	指導内容	国語辞典の使い方 意味の違い 漢字の多義性 慣用句 指示語 音訓 送りがな 三句十七音 季語 主語(あたま)のかざり 述語(からだ)のかざり 形容詞・形容動詞・副詞 漢字の構成 部首



第四学年		項	もくじ	指導内容
一	漢字辞典の使い方	部首索引		
二	ことわざ・故事成語を使おう	ことわざ・故事成語		
三	文の組み立てと修飾語	主語・述語・修飾語		
四	つなぐ言葉	文と文の接続関係 接続詞 接続助詞		
五	じゅく語の意味	熟語		
六	百人一首に親しもう	五句三十一音 百人一首		
七	同じ読み方の漢字	同音の漢字 同訓の漢字 同音異義語		
八	かなづかい	じ・ぢ ず・づ 現代かなづかい		
九	文末の言い方	文末表現		
十	伝わりやすい文	漢字かな交じり文 読点		
十一	ローマ字の書き方	大文字・小文字 長音・拗音・ 拗長音・促音等		
第五学年		項	もくじ	指導内容
一	敬語	尊敬語・謙讓語 丁寧語		
二	漢字の成り立ち	象形文字 指事文字 会意文字 形声文字		
三	いにしへの言葉に親しもう いにしへの人のえがく世界	古文		
四	思考に関わる言葉	文末表現		
五	どうやって文をつなげれば いいの？	接続語		
六	熟語の構成と意味	熟語		
七	和語、漢語、外来語	和語、漢語、 外来語		
八	日本語と外国語	語順		
九	方言と共通語	方言・共通語		
第六学年		項	もくじ	指導内容
一	熟語の構成	熟語		
二	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け	指示語 接続語		
三	漢文に親しもう	漢文		
四	場面に応じた言葉づかい	敬語		
五	複合語	複合語		
六	似た意味の言葉の使い分け	類義語		
七	表現をくふうする	比喩・反復・倒置		
八	六年間の復習			







一ねん まとめのテスト① (P1～P24)

一 えをみて □のなかにことばをかきましょう。

なまえ

てん






















二 つぎの □のなかに「は、わ、へ、え、を、お」のどれかを かきましょう。

(完答)

(一) うさぎ

--

は・わ

、

--

は・わ

いい どうぶつです。

(二) ぼくは、ひとりで

--

へ・え

か

--

へ・え

りました。

(三) ぼくは、あさが

--

を・お

の かんさつ

--

を・お

しました。



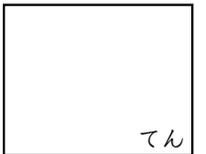
一ねん まとめのテスト② (P25～P31)

なまえ

一 つぎの かたちから できた かん字をかきましよう。



(二)



てん

二 つぎの えの ことばを かたかなで かきましよう。

(一)




(二)




(三)




三 つぎの かん字の よみかたを かきましよう。

☆の よみかたとは ちがう よみかたをかきましよう。

- (一) 一日 ( )
- (二) 六日 ( )
- (三) 二十日 ( )

☆いちにち

☆ろくにち

☆にじゅうにち

四 なかまに なる かん字を かきましよう。(完答)

ようびの なかまの かん字 ↓




一ねん まとめのテスト③ (P32 ~ P36)

なまえ

一 つぎの ことばは なにの なかまでしよう。

(一) りんご、みかん、いちご、パイナップル ↓

の なかま

(二) うさぎ、ねこ、きりん、ゴリラ ↓

の なかま

二 つぎの ことばの なかまには どんな ものが あるでしよう。三つかきましよう。

がつき ↓

三 人が はなした ことばに 「 (かぎ) を つけましよう。 (完答) 」

と		
い	ふ	と
い	わ	も
ま	ふ	だ
し	わ	ち
た	で	が
。	、	、
	あ	う
	っ	さ
	た	ぎ
	か	を
	い	だ
	ね	っ
		こ
		し
		て
		、

四 かたちの にている かん字を 正しく かきましよう。 (完答)

おう

さまが

を もつ。

ひやく

まいの

い かみ。

しろ

(三) 小さな

かい

を たくさん

み

つける。

(四)

にち

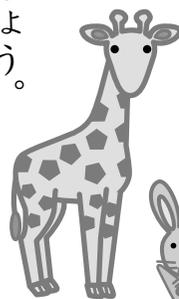
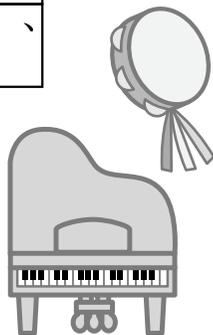
よう

び

は

め

のけんさ。



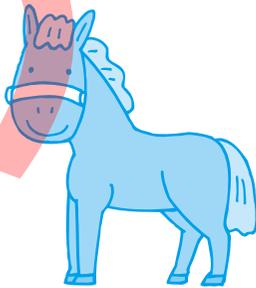
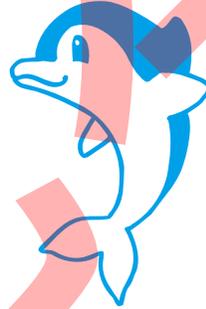
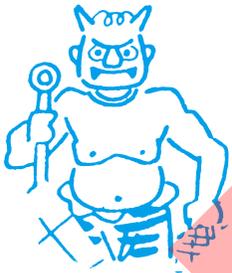
てん



一 ことばあそび 1 【教科書(上) P18~P19】

(一) くちのかたちを きをつけて よみましょう。

あさから あめふり  
 あいうえお  
 いるかど いいます  
 あいうえお  
 うまささん うたうよ  
 あいうえお  
 えがおで えんそく  
 あいうえお  
 おにさん おこるよ  
 あいうえお



	よくできた	くちのかたちをきをつけて よむことができた
	できた	
	もつすこし	

※母音の口の形に気をつけてさせて、はつきり発音できるようにさせる。  
 ※鏡を見ながら発音練習をさせる。  
 口の開け方や舌の動きに気づかせるとよい。  
 あ(のどに力を入れないで)  
 い(くちびるを横にぎゅっとひいて)  
 う(前につき出して)  
 え(軽くくちびるを開いて)  
 お(まるい輪をつくって)



二 ことばあつめ 1 【教科書(上) P20～P21】

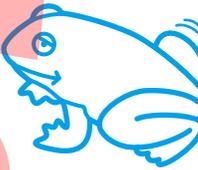
(一) つぎの おんが はじめに つく ことばを てを うちながら いいましょう。

か



か

か



か

え

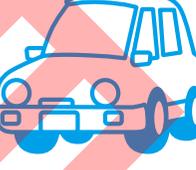
る

く



く

り



く

る

ま

こ



こ

ま



こ

あ

ら

※音(おん)とは、人が言葉に出す音のこと。

※文字や語の読みに慣れさせる。

※音節数をつかませるために、タンプリンやカスタネットを利用するとよい。

※音節(二音節・三音節)についての意識を高め、文字と音節との結びつきに気づかせる。



(二) つぎの おんが つく ことばを いいましよう。

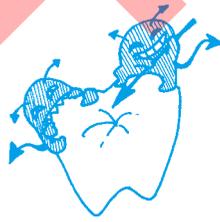
※各音のつく語を集めさせる。

し



し

か

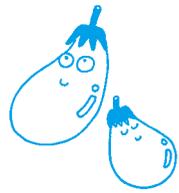


む

し

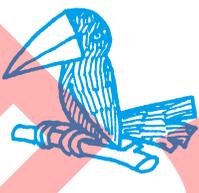
ば

す



な

す



か

ら

す

つ



く

つ



き

つ

ね

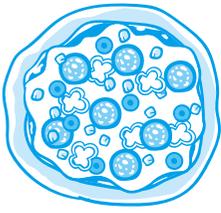
	おんがつかくことばを いっことができた
	できた
	もうすこし あぐできた



三 にじゅう おん 【教科書（上）P30～P31】

(一) えと ことばが あうように  や  をつけましょう。

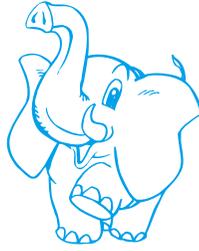
※清音と濁音・半濁音では全く違ったことばになることをはっきりさせ、その重要性を認識させる。  
 ※濁音や半濁音の読み慣れ、正しくはっきり発音できるようにさせる。  
 ※濁音・半濁音の場所を意識させ、正しく右肩に付けさせる。  
 ※濁音・半濁音を含むことばをたくさん集めさせてみる。



ひ
き



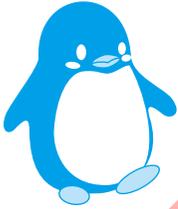
は
ん



ぞ
う



さ
る



へ
ん
き
ん



す
す
め



て
ん
き



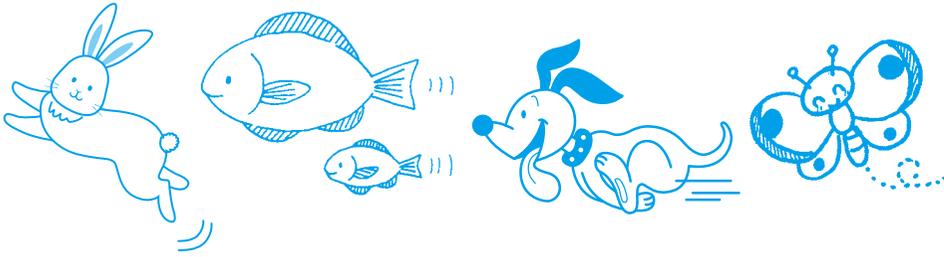
か
き



# 四 ぶんをつくろう

【教科書(上) P36 ~ P37】

(一) えをみて ぶんをつくりましょう。



4

(例) うさぎが

3

(例) さかなが

2

いぬが

1

ちようが

(なにが)

(例) はねる。

(例) およぐ。

(例) はしる。

とぶ

(どうする)





8

(例)  
さ  
る  
が

7

(例)  
と  
り  
が

6

(例)  
ね  
ず  
み  
が

5

(例)  
せ  
み  
が

(なにが)

(例)  
の  
ぼ  
る  
。

(例)  
う  
た  
う  
。

(例)  
ね  
る  
。

(例)  
な  
く  
。

(どうする)

※絵の中から、まず主語になるものを見つけて、それがしていることを書くようにさせる。



# 五 くつつきの 「は・へ・を」

【教科書（上） P44～P45、P54～P55】

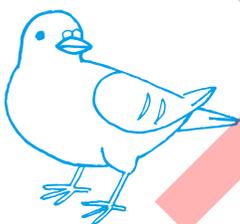
※名前ことばの中では、どの音節でも発音通りの表記をすることに気づかせる。

(一) 「は」の つく ものの なまえを かきましよう。

は し

は と

ご は ん

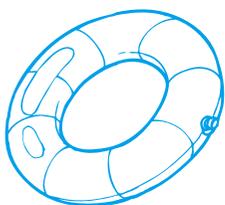


(二) 「わ」の つく ものの なまえを かきましよう。

か わ

う き わ

ひ ま わ り



(三) つぎの えを みて 


 のなかに ことばを かきましよう。 くつつきの 「は」を


 に かきましよう。

※「くつつき」という用語に慣れさせる。  
※助詞「は・へ・を」は、ことばをつなぐ働きをしていることを理解させる。



う
さ
ぎ
は

かわいい。



く
つ
は

はきものです。



わ
に
は

どうぶつです。



くつつきの 「は」は、ものの なまえの したに くつつきます。  
くつつきの 「は」は、「は」と かいて 「わ」と よみます。



(四) つぎの えを みて  のなかに ことばを かきましよう。くつつきの 「を」を

に かきましよう。

わたしは、



お
に
ぎ
り
<input type="checkbox"/>
を

たべました。

おねえさんは、



て
が
み
<input type="checkbox"/>
を

かきました。

おとうとは、



か
た
つ
む
り
<input type="checkbox"/>
を

つかまえました。

くつつきの 「を」 は、 ものの なまえの したに くつつきます。  
くつつきの 「を」 は、 「を」と かいて 「お」と よみます。



(五) つぎの えを みて 

--

 のなかに ことばを かきましよう。くつつきの 「へ」を

--

 に かきましよう。

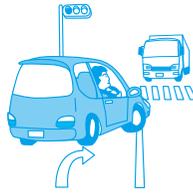
ぼくは、



こ
う
え
ん
へ

いきたいです。

くるまが、



み
ぎ
へ

まがります。

わたしは、



い
え
へ

もどります。

くつつきの 「へ」 は、もの の なまえの したに くつつきます。  
くつつきの 「へ」 は、「へ」と かいて 「え」と よみます。



(六) つぎの □ の なかに 「は、わ、へ、え、を、お」 の どれかを かきましよう。

※「名前ことば」、「ようすことば」、「うごきことば」の中にあつて「わ・え・お」と読む場合は、「わ・え・お」を使って表記し、「名前ことば」にくついでいて「わ・え・お」と読む場合は、「は・へ・を」と表記することに気がさせる。

は・わ

1 おねえさん は、 は  
みがきを しています。

は

わ

たし

は

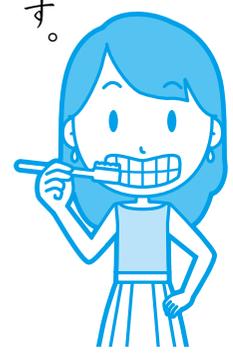
か

わ

いい

どうぶつが

すきです。



へ・え

3 ぼくは、ひとりで いえ かえりました。

へ

へ

いもうとを おか

え

に いきました。

を・お

5 ぼくは、あさが のかんさつ を しました。

お

を

6 て しっかり あげて

を

お

うだんましよう。



(七) つぎの「」のなかは、どちらがただしいでしょう。よいほうを○でかこみましよう。

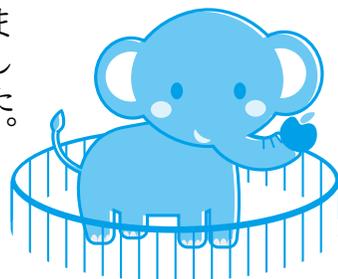
1 ぼく  
わ (は)  
、  
せみ  
お (を)  
つかまえに  
うらやま  
え (へ)  
いきました。

2 ぞうは、  
をり  
おり  
の  
なかで  
へさ  
えさ  
をたべて  
います。

3 ともだち  
わ (は)  
、  
まっかな  
かお  
お (を)  
して  
わしり  
はしり  
ました。

4 はたし  
わたし  
は、  
がっこう  
え (へ)  
べんとう  
お (を)  
もって  
いきました。

5 かへる  
かへる  
が、  
はえ  
お (を)  
つかまえました。



※ひとつづきの文として、読んでから記入させるとよい。

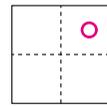
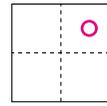
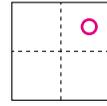
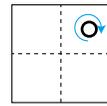
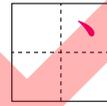
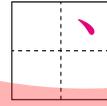
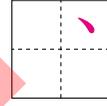
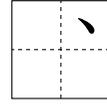


# 六 てんと まる

【教科書(上) P36～P37、P44～P45】

※読みやすくするところに、「てん」を、文の終わりには「まる」をつけることに気をつけさせる。  
※横書きの「・(カンマ)」については、中学年以降に指導を行うとよい。

(一) や の かきかたを れんしゅうしましょう。



(二) きって よむ ところに (てん)、ぶんの おわりに (まる) を つけましょう。

1 ぼくは みんなとあそびました。

2 き の う ご み ひ ろ い を し ま し た。

きって よむ ところには、 (てん) を つけます。  
ぶんの おわりには、 (まる) を つけます。  
、 (てん) や ○ (まる) は、 ますの みぎうえに かきます。



よこがきの ときには「、」「○」をかく ばしよがわかるよ。  
なぞって みよう。

ぼくは、げんきです。





七 つまる おん はねる おん 【教科書（上） P58～P59】

(一) 「つ」「や」「っ」に きを つけて よみましょう。

※促音の発音と表記が正しくできるようにさせる。  
 ※手打ち、タンプリン等でリズムをとって促音の音読をさせるとよい。  
 ※声を出さない促音のところは手をにぎらせるなど工夫をするとうい。

か っ ぱ  
 え に っ き て っ ぽ う  
 ま っ り て っ ぼ う

おおきい っ は はつきり こえに だして よみます。  
 ちいさい っ は こえに ださないで つまったように よみます。



	よくできた	やにきをつけて よむことができた
	できた	
	もうすこし	



(二) —の ことばを ただしく かきましよう。

おおきな おとに びくり しました。

び			
	っ		
		く	
			り

かけこを しましよう。

か			
	け		
		っ	
			こ

ともだちが おこた。

お			
	こ		
		っ	
			た

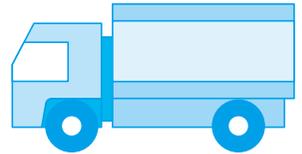
※促音は小さく書かせる。一マスとり、縦書きの場合はマスの右上に、横書きの場合は左下に書くことに注意させる。  
 ※手を打たせながら言わせて、促音の場所を意識させる。  
 ※促音を含む言葉をたくさん集めさせる。



よこがきの ときには  
 「っ」を かく  
 ばしよが かわるよ。  
 なぞって みよう。

せ	っ	け	ん
---	---	---	---

と	ら	っ	く
---	---	---	---



(三) 「ん」に きを つけて よみましょう。

※撥音の発音と表記が正しくできるようになる。

• ゆ う び ん

• せ ん た く き

• り ん ご  
• で ん わ



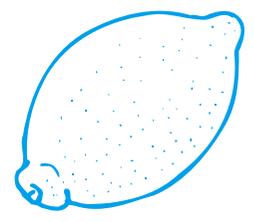
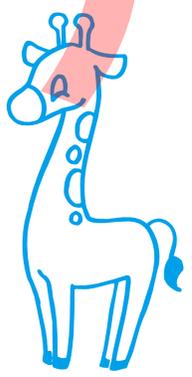
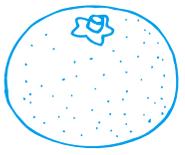
「ん」は、はねるようにいいます。  
「ん」からはじまることばはありません。

(四) 「ん」の つく ことばを かきましょう。

(例) と ん ぼ

(例) き り ん

※例 えほん・みかん・れもん・ほんや・まんが など。



😊	よんできた	「ん」にきをつけて よむことができた
😊	できた	
☹️	もうほこ	



八 ことばあつめ 2 【教科書(上) P60～P61】

(一) えをみて しりとりあそびを しましょう。

し か



か たつむり



り す



す ずめ



め がね

ね こ



こ ま



ま つ



つ く し



やってみよう



ちびおすドリル 「しりとり」

※語意識を高め、言葉の拡充をはかる。  
※発音指導(幼児語の矯正)をする。



(二) どんな ことばが かくされて いるのでしょうか。 あいている  に あてはまる もじを かきましよう。

(れい)

ね

た こ め

ぬ り

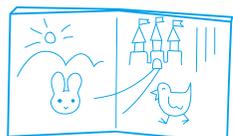
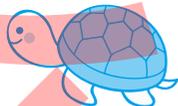
ま

つ く え の ぐ



ほ ん

し いか め



さ

う ち



こ

で ん わ な げ



か め

う ま め

ち



九 ことばあそび 2 【教科書（上） P62～P63】

(一) はつきり こえに だして よみましょう。

あ かさたな はまやらわです あかいはな

い きしちに ひみいりいです いすひとつ

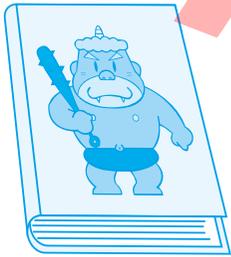
う くすつぬ ふむゆるうです うかぶふね

え けせてね へめえれえです えだのへび

お こそこの ほもよろをです おにのほん

※ひらがな五十音の読みに慣れさせ、正しく、はつきり発音できるようにさせる。  
 ※ひらがな五十音の横の読み方にも慣れさせる。  
 ※リズムを大切にして読むために、分かち書きにしない。

	はつきりよみました
	よみました
	よみました



十のぼしてよむ ことば 【教科書(上) P66～P67】

(一) のぼす おん( ) に **き** をつけてよみましょう。

おかあさん おにいさん ちいさい

たいふう すうじ くうき おねえさん

すもう べんとう ほうき ぼうし

とけい せんせい こおり おおかみ

「かあ・にい・ふう」のような おんは、「のぼす おん」です。  
ながく のぼして よみます。



ひらがなで  
「ー」は つかわないよ。  
× ぶーる  
○ ぶうる  
「ー」は P28で ならうよ。

※原則は、「ア段をのぼすときはあ、イ段はい、ウ段はう、エ段はえ、オ段はう」と書かせる。

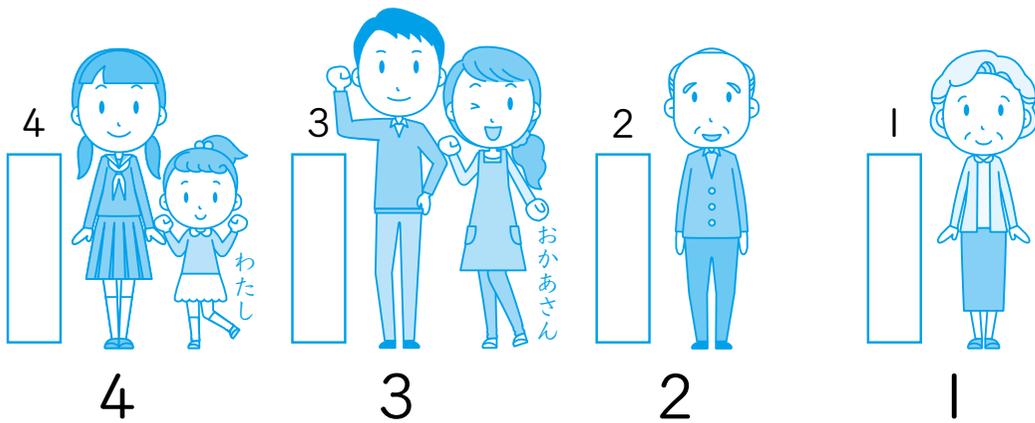
※かたかな表記のことはひらがなで表記する場合、長音は「ー」を使用せず、すべてひらがなで表記する。  
(例) ぶうる・のうと 等)

※エ段の場合、原則に即したエ列長音は、「おねえさん」「ねえ(呼びかけ)」「ええ(返事)」以外にはほとんどなく、実際には例外のものが多い。

※ 「こおり」「おおかみ」「おおい」「おおい」「とおる」「こおるぎ」「おおい」「お」と書かせる。  
P23下のふきだし参照。

よくできた	できた	もうすこし
😊	😊	😞
のぼすおんにきをつけてよむことができた		



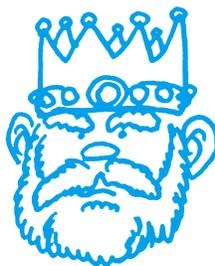
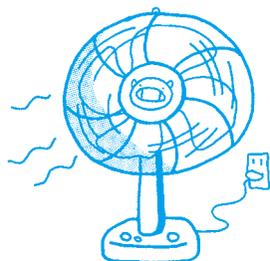


(二) えをみて  の なかに ことばを かきましょう。

お	お	お	お
ね	と	じ	ば
え	う	い	あ
さ	さ	さ	さ
ん	ん	ん	ん

※長音の発音と表記が正しくできるようにさせる。





8

7

6

5

れ
い
ぞ
う
こ

せ
ん
ぶ
う
き

お
う
さ
ま

と
う
ふ

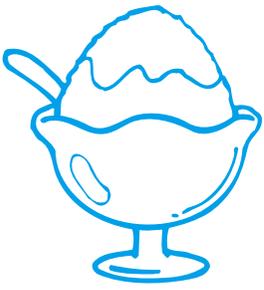


みてみよう



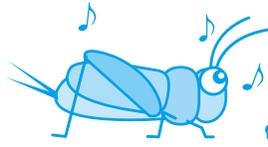
NHK for school  
「かなづかいの ルール」





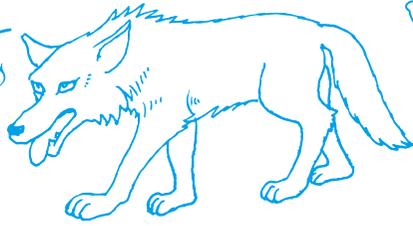
12

か
き
ご
お
り



11

こ
お
ろ
ぎ



10

お
お
か
み

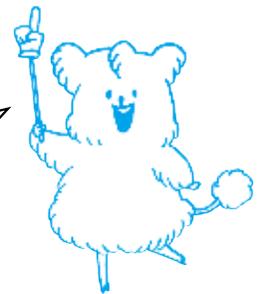


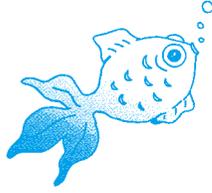
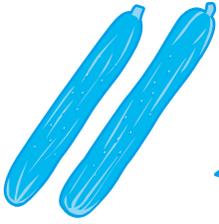
9

せ
ん
せ
い

「お」とかく ことばには  
 こんなものがあるよ。  
 「とおくの こおりの うえを  
 おおきな おおかみ  
 とお とおる。  
 (十びき)  
 おおくの こおろぎ  
 おおあわて。」  
 と おぼえるよ。  
 こんな  
 しょくぶつも  
 あるよ。

ほおずき





(一) ちいさい 「や」「ゆ」「よ」に きをつけて かきましよう。

十一 ちいさい 「や」「ゆ」「よ」 【教科書(上) P76～P77】

き	ほ	き	ひ	あ
ゆ	う	ん	や	く
う	ち	ぎ	く	し
り	よ	よ	え	ゆ
	う		ん	

よこに かく とき

し	よ	つ	き
---	---	---	---



※拗音で小さく書く字は、  
一マスとってマスの右上に小さく書かせる。  
※・は一音節を表す。手打ち、  
タンプリン等でリズムをとって音読させる。



みてみよう

NHK for school  
「ちいさく かく かな」



十二 音おとや ようすを あらわす ことば 【教科書(上) p96～p99】

(一) 物の音おとや ようすを あらわす ことばを かきましよう。

どうぶつ



がつき



てんき



のりもの

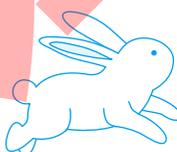


わんわん

しやんしやん

ぴかぴか

がたんごん



びよんびよん

どんどん

ざあざあ

ぶうぶう

※擬音語・擬態語につながる学習をさせる。ひらがな・かたかなの区別は二年生で学習するので、ここでは、ひらがなで扱う。

※ことばあそびうたを作る際の言葉集めの一環として取り組ませるので、同じ音が二度くりかえされるようなものを挙げさせるとよい。



NHK for school  
「きゅっきゅつと  
ぎゅつぎゅつ」

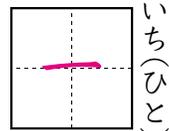


# 十三 かん字あつめ

【教科書(上) P114 ~ P117、P126 ~ P129】

※数え歌の歌詞を手がかりとして、  
いろいろな物の数え方や漢数字の  
読み書きが正しくできるようさせる。

(一) の 中に かん字を かき、かぞえうたを よみましょう。

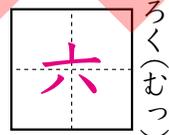


いち(ひと)

一つ

ひらひら  
はなびら

いち  
一まい

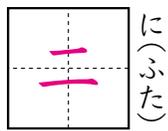


ろく(むつ)

むつ  
六つ

むかしの  
おはなし

ろく  
六さつ

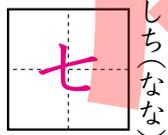


に(ふた)

ふた  
二つ

ふきけす  
ろうそく

二ほん

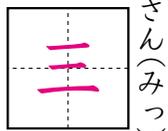


しち(なな)

なな  
七つ

ないてる  
からすが

しち  
七わ

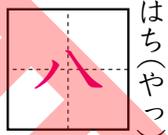


さん(みつ)

みつ  
三つ

みどりの  
おふねが

さん  
三そう

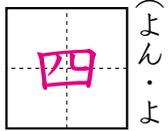


はち(やつ)

やつ  
八つ

やまには  
すみれが

はち  
八りん

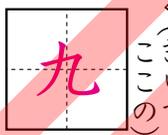


し(よん・よつ)

よつ  
四つ

よくばり  
ジュースを

よん  
四はい

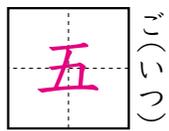


く(きゅう)

この  
九つ

こんこん  
こぎつね

きゅう  
九ひき

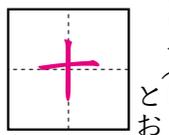
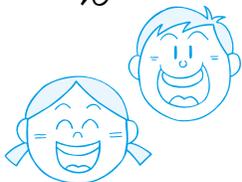


ご(いつ)

いつ  
五つ

いつでも  
なかよし

ご  
五にん



じゅう(じゅう)

とお  
十で

とうとう  
なわとび

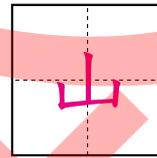
じゅう  
十かい



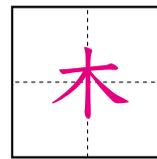
※「じゅうかい」という場合もあるが、これは、正しい読み方ではないので、「じゅうかい」に慣れさせる。



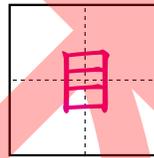
(二) つぎの かたちから できた かん字を  に かきましよう。( ) に よみがなを つけましよう。



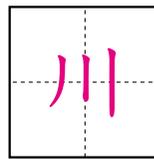
( や ま )



( き )



( め )



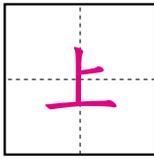
( か わ )

かん字には、もののかたちからできたものがありません。

(三) つぎの しるしから できた かん字を  に かきましよう。( ) に よみがなを つけましよう。



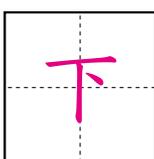
(よこぼうより うえ)



( う え )



(よこぼうより した)



( し た )

かん字には、しるしからできたものがあります。

※字源に基づいて、正しい筆順で、字形を整えて書くよう指導する。  
※象形文字や指事文字の起源に目を向けさせることによって、漢字に興味をもたせる。



# 十四 かたかな

【教科書(下) P20～P23、P100～P101】  
 ※かたかなを、字形に注意して、正しい筆順で書かせる。  
 ※長音を「ー」で表記することをおさえる。

(一) かきじゅんと はらいの ほうこうに 気を つけて かきましよう。


(二) 正しく 書いて ある ほうに ○を つけましよう。

※「シ」と「ツ」の点の向きは、ひらがなの運筆と同じであることを教えるときよい。



かたかなで のばす 音を かく ときには、「ー」をつかいます。

(○) ノー ト

( ) ノー ト

(○) ノー ト

( ) ノー ト



(○) ピー マン

( ) ピー マン

(○) ピー マン

( ) ピー マン

やってみよう



ちびむすドリル 「かたかな れんしゅう」



(三) なた かたちの かたかなを なぞりましょう。

※まちがえやすいかたかなの練習をさせる。

ワ	ク
ユ	コ
ヌ	ス
ヒ	セ
ラ	テ
メ	ナ
ミ	ニ
ア	マ

(四) つぎの えの ことばを かたかなで かきましよう。



サ
ラ
ダ



シ
ー
ソ
ー



テ
レ
ビ



ラ
ン
ド
セ
ル





リ
ユ
ツ
ク
サ
ツ
ク

ピ
ア
ノ

チ
ユ
ー
リ
ツ
プ

カ
ス
タ
ネ
ツ
ト

マ
イ
ク

ス
プ
ー
ン

シ
ヤ
ワ
ー

チ
ヨ
コ
レ
ー
ト

タ
ヌ
キ



十五 よう日と 日づけ 【教科書(下) P36~P37】

(一) カレンダーに よう日の かん字と

よみかたを かきましよう。

(二) つぎの かん字の よみかたを

かきましよう。

※日付を正しく読めるようにさせる。  
※一週間の始まりは日曜日。日曜日を手がかりにして、曜日を考えさせる。

日	月	火	水	木	金	土
(にち)	(げつ)	(か)	(すい)	(もく)	(きん)	(ど)
よう日び	よう日び	よう日び	よう日び	よう日び	よう日び	よう日び
<b>2024年11月</b> ねん がつ						
3	4	5	6	7	1	2
10	11	12	13	14	8	9
17	18	19	20	21	15	16
24	25	26	27	28	22	23
					29	30

六日	五日	四日	三日	二日	一日
(むいか)	(いつか)	(よっか)	(みっか)	(ふつか)	(ついたち)
	二十日	十日	九日	八日	七日
	(はつか)	(とおか)	(このか)	(ようか)	(なのか)



十六 まとめて よぶ ことば 【教科書(下) P56～P57】

(一) つぎのことばを まとめて よぶ ことばは なんでしょう。

	つばめ		バス		りんご		あさがお
	はと		ひこうき		バナナ		ひまわり
	にわとり		でん車 <small>しゃ</small>		いちご		チューリップ

↓	↓	↓	↓
とり	のりもの	くだもの	花

のなかま

のなかま

のなかま

のなかま

※ことばの拡充をはかり、語彙を豊かにさせる。  
※ことばには仲間があることを理解させる。



(二) つぎのことばの なかまには、どんな ものが あるでしょう。下から した えらんで かきましよう。

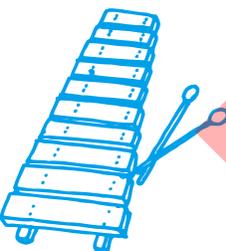


どうぶつ ↓

<del>犬</del>	<del>ぞう</del>	<del>うさぎ</del>
	きりん	ねこ



がっき ↓

ピアノ	もっきん	タンブリン
	すず	たいこ

- うさぎ  
タンブリン  
たいこ  
ねこ  
もっきん  
ぞう  
きりん  
すず  
犬 いぬ  
ピアノ





十七 かぎ 【教科書(下) P64、P67】

(一) 「」(かぎ)のかきかたをれんしゅうしましょう。

		┌
は		
い		
└	○	

		┌
は		
い		
└	○	

		┌
は		
い		
└	○	

※会話文には、「」(かぎ)をつけることを理解させ、正しく使えるようにさせる。

(二) 人が はなした ことばに 「」(かぎ)をつけてみましょう。

と		
い	お	ぼ
い	は	く
ま	よ	は
し	う	
た	ご	せ
	ざ	ん
	い	せ
	ま	い
	す	に
		は

と		
、	た	わ
げ	だ	た
ん	い	し
き	ま	は
よ		
く		
い		
い		
ま		
し		
た		
。		

だれかが はなした ことばには、「」(かぎ)をつけて かきます。



# 十八 かたちの にて いる かん字

【教科書（下） P138 ~ P139】

※字形の似ている漢字を区別して、正しく読み書きさせる。

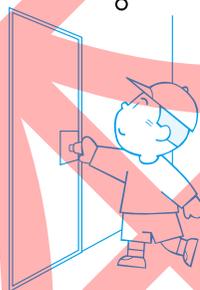
(一) かたちの にて いる かん字を 正しく かきましよう。

人 ひと

が

入 はい

る。



木 き

の

下<sup>した</sup>で

本 ほん

を

よむ。

石 いし

を

右 みぎ

がわに

おく。

土 つち

の

上 うえ

。

百 ひやく

まいの

白 しろ

いかみ。

日 にち

よう日は

目 め

のけんさ。



(二) なかまになる かん字をかきましよう。

1 からだの なかまの かん字

あし

足

て

手

め

目

みみ

耳

くち

口

2 かずの なかまの かん字

いち

一

じゅう

十

ひゃく

百

せん

千

3 よう日の なかまの かん字

にち

日

げつ

月

か

火

すい

水

もく

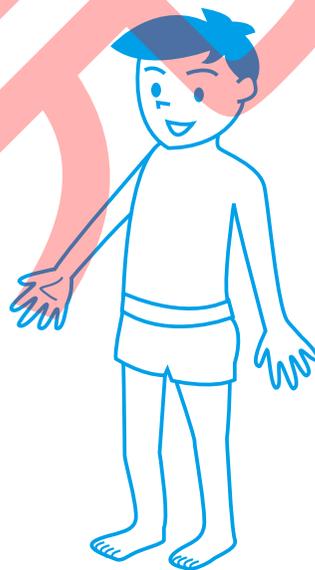
木

きん

金

ど

土



●<sup>うえ</sup>上から <sup>ひだり</sup>よんでも、左から <sup>よんでも</sup>よんでも、  
 きちんとした <sup>ことば</sup>ことばに <sup>する</sup>するには、□に  
 どんな <sup>もじ</sup>もじを <sup>いれたら</sup>入れたら <sup>よい</sup>いでしよう。



か	ら	す
---	---	---

ず	み
め	だ
か	ん

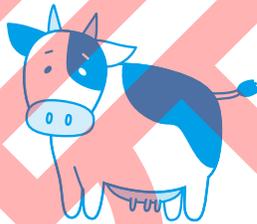
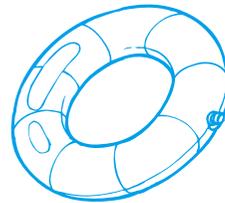


で
ふ
と
ん
わ

ふ	と	ん
---	---	---



う	き	わ
し		



令和6年度版 **ことばのきまり** 1年

編集 「ことばのきまり」編集委員会  
 三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会  
 〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
 電話 0564-51-4819  
 FAX 0564-51-4788

印刷 株式会社 ヨシノ印刷

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。



なまえ

ねん

くみ

見本